

# 博物館は 「新しい世界への興味の扉」

大規模な企画展で話題になる博物館、その地域出身の偉人を紹介する資料館……。博物館は身近にはあるけれども実はあまり足を運ぶ機会がないという人も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、『ぶらりあるき パンコクの博物館』（芙蓉書房出版）など数々の博物館に関する著作がある中村浩先生に、博物館の種類や魅力、楽しみ方などについてお話を伺いました。

中村 浩(浩道)先生  
1947年大阪府生まれ。立命館大学卒業。  
大阪府教育委員会文化財保護課勤務の後、  
大阪大谷女子大学で教鞭を執る。現在は大阪  
大谷大学名誉教授。考古学、博物館学関係  
の著書が多数あり、現在「ぶらりあるき博  
物館」シリーズを刊行中。

## ▼バガンの仏塔群



▲バガン（ミャンマー）を代表する仏塔シュエズイーゴオン・パヤー（11世紀建立）の前で。  
バガンには国立考古学博物館や千以上のパゴダ（塔）や寺、僧院があります。

## 様々な分野の知識の宝庫 博物館をもっと活用しよう

博物館には多くの種類があります。主に芸術作品を展示・収蔵している美術館、地域の文化を伝える歴史博物館、民俗博物館、自然や天文資料を扱う科学館などがその代表です。ほかにも産業や企業などの記念館、各種資料館や文学館、そして水族館や動物園、植物園も博物館に含まれます。

日本の博物館は、平成20年度社会教育調査によると現在、5775館存在します。これらは各分野の専門家の研究成果の集合体であり、文字通り知識の宝庫です。しかし、博物館に足を運ぶ人は非常に少ないのです。同調査では、1人当たりの入場館数は、年間0.97。1年に1回、何らかの博物館へ行くかどうかという結果でした。

そもそも日本は、国家規模で博物館を整備することがありませんでした。しかし、海外の多くの国では、自国の民族性や文化、歴史などを知ることができる博物館を、国家事業として整備しており、住民は皆、小さい頃からそれを見に行きます。さらに観光客も、博物館を

見ることその国を知ることができの  
です。例えばシンガポールでは、博物館  
は観光立国の中枢施設として意義づけ  
られてきました。また、ルーヴル美術館  
などの欧米の博物館は学校団体が見学  
に訪れるケースが多く、見学者には学  
芸員がいていねいに対応しています。そう  
いった意味では、日本の博物館は、まだ  
まだ改良の余地があると言えるかもしれ  
ません。

### 博物館は新しい世界や文化に 興味を持つ「きっかけ」の場所

博物館で何かに驚いたり、感動した  
り、不思議に思ったりすることで、その  
分野への興味や関心が生まれます。知ら  
なかった世界に触れて、世界観が変わる  
こともあるでしょう。研究者の多くは、  
子どもの頃に、博物館で何らかの感動を  
得た経験を持っているようです。その感  
動や興味は、学習や研究の世界への第一  
段階。そこから専門的な道が開けていき  
ます。前述したように、博物館は、館  
ごとに様々な専門分野を持っています。  
先史時代の恐竜の化石から、縄文・弥  
生人が手にしていた土器、戦国時代の武

将が身につけていた甲冑、効率よく収穫  
するために改良が重ねられた農具、江戸  
時代の人々の心を楽しませた浮世絵や最  
新の科学技術が詰まったロケットまで、  
実に多種多様な資料が集まっています。  
そこには、その時代を生きていたとい  
う証があり、それらを作った人、使っ  
た人たちがいるのです。たとえ最初は興  
味を持ってなかったとしても、何力所かを  
訪れていくうちに、誰しも何かしら興味  
をそそられるものが出てくるのではない  
でしょうか。

子どもの頃から博物館で生物や化学、  
芸術文化、歴史や世の中の仕組みなどに  
触れることは、とても重要なことです。  
海外では、大きな博物館には、児童美  
術館や子ども博物館などが併設されてい  
ます。これは欧米だけでなく、アジアに  
も多くの例があります。韓国慶州国立  
博物館、ソウル国立中央博物館、香港文  
化博物館、台湾高雄市立児童美術館  
などがそれです。そのなかには、台湾高  
雄市市立児童美術館のように、対象が  
子どものみという施設も少なくありませ  
ん。特に動物園や水族館には、子ども  
向けの企画や工夫が多いようです。

### 五感を使って多くのものに触れ 興味を幅を広げることが大切

日本でも最近では、子どもが実際に触れ  
られる、ワークショップなどを行う施設  
が増えてきました。例えば、昔の装束や  
甲冑を身につけたり、農業や物作りを体  
験したり。考古学の発掘を体験できるこ  
ころもあります。このような体験は、た  
だ見るだけとは違って楽しめるうえ、イ  
ンパクトがあります。印象にも残ります  
し、「また行きたい」と思える原動力に  
もなります。機会があれば、そういった  
ものにも参加してほしいと思います。

博物館というのは、子どもにとっては  
テーマパークであるとともに、様々な物  
事に対する関心の出発点です。ただし、  
何を感じるかは子どもの自由ですし、一  
人ひとり異なります。化石に興味を示す  
子もいれば、機械や絵画に関心を持つ子  
もいるでしょう。子どもがどんなことを  
好きになるかは大人にもわかりませんか  
ら、とにかく、いろいろなものを見て、  
触れる機会を作ってあげてください。博  
物館は、子どもが自分自身の適性や思考  
を知るための絶好の「きっかけ」になる  
と思います。